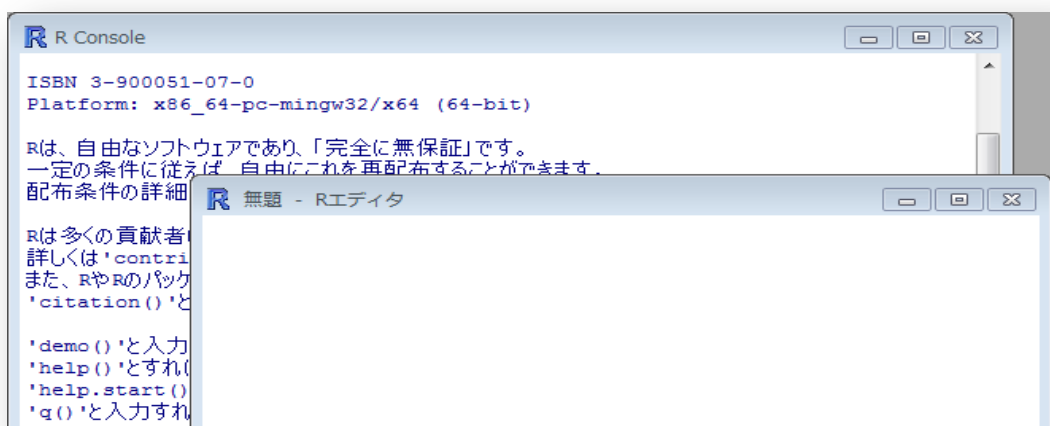


3日目：R エディタを使う

本日は、「R エディタ」を使ってRをコントロールしてみましょ。なお、昨日命令を書いたり、結果が示されたりしたのは「R コンソール」です。Rのコントロールは、「R コンソール」を使うという手と、「R エディタ」を使うという手の2つがあります。それぞれに便利などころがあるので、適切に使い分けるのがよいのかなと思っていますが…

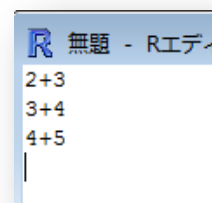
まず、Rを起動しましょう。

次にRエディタを表示させます。メニューバーの「ファイル」→「新しいスクリプト」をクリックすれば、新規のエディタ画面が開きます。




では、このRエディタに「2+3」と入力してみましょ。Rコンソールへの入力時であれば、「2+3」と入力してエンターを押せば計算を実行してくれます。ところがRエディタでは、「2+3」と入力してエンターを押してもカーソルが一つ下に動くだけです。Rコンソールにも、何の変化もないはずで。

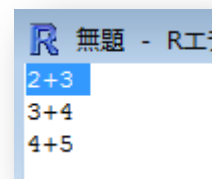
さらに「3+4」と入力してエンター、「4+5」と入力してエンターとやってみてください。やはりRコンソールには何の変化もなく、Rエディタには右のように入力されているでしょう。



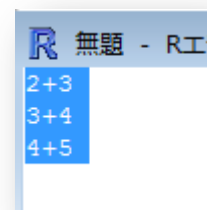
Rエディタでは、エンターが実行の指示にはなりません。その命令を実行させるには、別の指示が必要になります。このことは逆に、複数の命令を先に書いておいて、一気に実行させることができるということになります。

では、命令を実行させてみましょう。R エディタの方で、1行目をドラッグして選択してください。

ここで、メニューバーの「編集」から「カーソル行または選択中のRコードを実行」を選ぶか、ショートカットの「Ctrl+R」や「F5」を押すか、メニューバーの下にあるこのアイコンをクリックします。するとR コンソールの方に、命令と結果が表示されます。



続いて、R エディタで1行目先頭から3行目末尾までをドラッグして選択してください。そして、メニューバーの「ファイル」から「実行」を選ぶか、ショートカットの「コマンド + エンター」を押します。するとR コンソールの方に、3つの命令とその結果が表示されます。



なお、R エディタからの命令が終わったあと、今度はR コンソールに移って、直接「5+6」を計算してみてください。

何の問題もなく、この計算をやってくれます。つまりR エディタからの命令とR コンソールに直接入力する命令が混在してもかまわないのです。

R コンソールとR エディタをいったり来たりしながら、いろいろと計算命令を出してみてください。

このように、命令をまとめて実行できることがR エディタのメリットですが、もう一つ、命令群をまとめて保存できることがあります。

R エディタは同時に複数開くことができますので、以前のものから一部をコピーしてもってきたり、新しいものを組み上げることもできます。残しておきたい命令はR エディタから、テンポラリーな命令はR コンソールでといった使い分けをすると便利だと思います。

では、3行を書いたR エディタを保存してみましょう。後々も活用するので、どこかにR の練習のための専用フォルダを作成して、そこに保存してください。拡張子は、「.R」になります。R エディタのウィンドウが一番手前にある状態（エディタのウィンドウがアクティブの状態）で、「ファイル」から「保存」をクリックするか、「Ctrl+S」を押します。

保存ができたなら、R を終了します。作業スペースの保存は、しなくても問題はないでしょう。

終了したら、再度Rを起動してみます。メニューバーの「ファイル」→「スクリプトを開く」から、保存したエディタを開くことができます。

さて、これで3日目は終了です。